

子ども特派員 わが街を行く!

この紙面は、自分の住んでいる街や校内活動を、自分たちで取材・編集する「子ども特派員」とともに編集しています。

今回の「子ども特派員」は、小張小学校6年生の野島桜さん(前列左)、野口奎介さん(前列中央)、佐藤孟徳さん(前列右)、荒谷賢汰さん(後列左)、古田慎之助さん(後列中央)、秋田絵理菜さん(後列右)が、小張小学校で約20年前から続く「綱火」学習を紹介します。

小張小の自慢「綱火」

私たちの小張小学校では、約20年前から地元に400年以上前から伝わり、国の重要無形民俗文化財に指定されている「綱火」を体験、学習しています。

小張地区に伝わる「綱火」は、江戸時代の初めに小張城主「松下石見守重綱」によって考案され、重綱が転勤する



ときに、家来である「大橋吉左衛門」に受け継がれたものです。吉左衛門の子孫は、代々綱火家元になっています。毎年8月24日になると、綱火保存会の方々が、愛宕神社の前でとても色鮮やかな花火とともに人形を操っています。また、保存会の人たちは、毎年、綱火が無事に終わることを願って、行っているそうです。

小張小学校では、毎年6月になると綱火保存会の皆さんが「くりこみ」で使う楽器や、人形を綱で操る「綱操り」を教えに小張小学校を訪ねてくれます。楽器は6年生が担当し、大太鼓、小太鼓、鼓、鉦、笛の5つがひとつになる



ようにリズムを合わせます。「綱操り」は初めて参加する5年生が担当します。5年生は、手に軍手をはめ力いっぱい頑張っています。

私たちは、綱火家元の大橋さん親子にインタビューすることができました。綱火には「小張松下流綱火」のほかに「高岡流綱火」、常総市にある「かつらぎ流綱火」があり、五穀豊穡・火難除けを願うために行われているそうです。綱火で使う人形は、継承者が代わる時に新しく継承する人が作るそうです。そして、綱火で一番大変なことは、花火を作ることと話してくれました。昔からの伝統を残したいからと、花火を自分たちで作っているということを知り、とても驚きました。昔のままの「綱火」をいつまでも続けていきたいとも話してくれました。

私たちは、地域の伝統として今日まで守り伝えてきた綱火を、今後も次世代に継承し、大勢の人に親しんでもらえることを願っています。また、保存会の皆さんに「おはやし」や「綱操り」を指導してもらった成果を運動会や小張秋祭りで表現できるようにがんばります。



|| 学校通信 ||

このコーナーでは、市内小中学校のお知らせ情報を掲載します。

〔板橋小学校〕
資源回収を実施します。

▼日時：10月19日(土) 午前8時
※小雨決行(雨天時は翌日)

▼回収物：新聞・雑誌/段ボール/アルミ缶/古着・布

▼対象：板橋小学校区

▼集積場所：板橋小学校

▼方法：各地区の集積場所または板橋小学校に出してください。新聞、雑誌は、ひもでしばってください。

問 板橋小学校 ☎ 58 - 0002